京都・大阪で市中感染

オミクロン株

京都府と大阪府は23日、20代女性1人と小学生1人の新型コロナウイルス変異株「オミクロン株」感染が確認されたとそれぞれ発表しました。いずれも直近の海外渡航歴はなく感染経路は不明で、市中感染したとみられます。

2人とも22日に市中感染が確認された大阪府の家族3人との接点はないといいます。同株の市中感染者は計5人となりました。

京都府によると、女性は京田辺市在住で19日に39・5度の発熱などの症状が出て、20日に医療機関を受診。同日、コロナ陽性が判明し入院しました。全遺伝情報（ゲノム）解析の結果、オミクロン株感染が確認され、症状は軽いといいます。女性はコロナワクチンを2回接種済みでした。

大阪府によると、オミクロン株感染が判明した小学生の家族は陰性でしたが、同じクラスの児童3人のコロナ陽性が確認されました。府はオミクロン株かどうか解析を進めています。

すでに市中感染拡大か

専門家見解「氷山の一角」

新型コロナウイルスの変異株「オミクロン株」について、感染経路不明の感染者が国内でも確認されました。専門家は、感染が既に市中で広がっているとの見方を示した上で、3密回避やマスク着用など、これまでの感染対策を継続するよう求めました。

感染症が専門の大学教授は、今回の事例を「氷山の一角」と表現し、「検疫をすり抜けたウイルスの感染が既に広がっているだろう」と推測します。その上で、「冬場は肺炎が重症化しやすく、インフルエンザも流行しやすい。今大切なのは3密回避やマスク着用、換気徹底といった基本的な対策だ」と訴えました。

国に対しては、開発が進むオミクロン株用のワクチン確保を急ぐとともに、水際対策を続けて流入を可能な限り食い止め、急激な病床逼迫（ひっぱく）を防ぐよう求めました。

新型コロナ対策を助言する厚生労働省の専門家組織は22日夜、国内での市中感染確認を受け「今後、（日本でも）感染拡大が急速に進むことを想定すべき状況にある」と分析。今月から始まったワクチンの3回目接種について、医療従事者や重症化リスクが高い高齢者への前倒しの円滑な実施が求められるとの見解を公表しました。

同組織座長の脇田隆字・国立感染症研究所長は会合後の記者会見で「オミクロン株へのワクチン効果がかなり弱まっている可能性がある。マスク着用や手指衛生、3密回避といった基本的な感染対策の徹底を継続することが必要だ」と強調。人が集まる機会の多いクリスマスや年末年始が控えており、「デルタ株の感染も増加している。少人数での活動を心掛け、大声を出す長時間の宴会などは避けてほしい」と訴えました。

オミクロン株累計200人に

国内で新たに40人確認

新型コロナウイルスの変異株「オミクロン株」の感染者は23日、国内で新たに40人確認されました。同株感染者の累計は200人となりました。

厚生労働省などによると、14～20日に米国や英国、ケニアなどから入国した33人のオミクロン株陽性が空港検疫で判明。このほか沖縄県で4人、千葉県、京都府、大阪府で各1人の感染が分かりました。沖縄県の4人のうち3人は、新型コロナのクラスター（感染者集団）が発生している米軍キャンプ・ハンセン（同県金武町など）の従業員。

一方、国内では23日、新たに295人の新型コロナ感染が判明。死者は2人確認され、重症者は前日比2人増の28人でした。

東京都は37人の感染を確認しました。1日当たりの感染者数は前週の木曜日と比べ7人増え、死者はゼロでした。都によると、新規感染者の直近1週間平均は29・6人で前週比140・3%。

12/24 読売